

## 第3回根室市子ども・子育て会議記録

1 開催日時 平成27年2月10日(火) 午後7時00分～8時30分

2 場 所 根室市 3階 大会議室

3 概 要

(1) 開会

(2) 会長挨拶

(3) 出欠報告

(4) 議事

### ①子ども子育て支援事業計画(素案)

(委員): 一つ目は、出生数・死亡数についてですが、平成18年度より根室市では分娩が行われていない状況であり、今後の見通しとして、出生数の増減についての把握はしているか。

二つ目として、母子保健(第3章)とも関連するが、発達障害のお子さんが増えている状況であるが、今後2歳児の健診の取り組みについてお聞きしたい。

三つ目として、放課後教室とは、いわゆる1年生の「ランドセル」のことを指しているのか教えていただきたい。

事務局: 分娩に関わる事となりますが、医療のこととなりますので、非常に難しい状況である。産婦人科医の招へいを全力を挙げて行っている。

出生数の関係では、数字上このように表れているが、現在の人口減少・若者の流出、出産世帯の人口の割合が減少しており、一概に影響がないわけではないが、それだけの理由だけで出生数が減少しているわけではない。

現在、分娩に係る交通費を助成しており、今後も拡充する方向で進めている。

また、健康増進計画も並行して作成しているが、出生から専門的な保健師が関わって、きめ細やかなケアを行っていききたい。

事務局: 留守家庭児童会の対象は1年生から3年生で、保護者が仕事や病気などで昼間、家庭で児童をみる事が出来ない方となっている。

また、「ランドセル教室」については、放課後教室設置時に1年生のみですが、学校から直接行けるよう制度を作ったものです。

事務局: 先程、2歳児の健診についてご質問がありましたが、現在4ヶ月健康診査、7か月健康相談、1歳6ヶ月健康診査、3歳児健康診査ということで実施していきたいと考えている。

2歳児については、集団ではなく、1歳6か月健康診査の中で、今後の成長発達について寄り添って経過を見た方が良いというお子さんについては、戸別で訪問や専門カンファをしていきたい。

(委員): 少子化に伴う適正配置について、詳しく教えていただきたい。

事務局： 少子化が進んでいる中で、入所児童の今後のシミュレーションを行い、また施設の老朽化や維持管理も含めて保育所の適正配置について検討していくものです。

また、へき地保育所等についてですが、へき地には欠かせない保育所であることから入所児童の減少もありますが、子育てのニーズの高まり等もありますので、今後開所期間などのあり方などについても検討していきたい。

(委員)： 障がいのある子についても放課後教室の利用について、現在専門の先生を配置しているという事で今後、拡充していただきたい。

併せて、作業療法士等の専門職を配置してほしいという保護者の要望がありますので、今後どのようになりますか。

事務局： 放課後教室での障がい児童の受入についてですが、今後拡充のため、体制整備が必要となる。その中で今後、拡充を検討していきたい。

(委員)： 作業療法士についてはいかがでしょうか。

(委員)： 中標津や旭川に通うのは保護者の負担が大きい。

事務局： 作業療法士等については、障がい児等の子育て支援の充実についても盛り込んでいることから、我々も中心となり今後担当課と検討していきたい。

(委員)： 作業療法士を配置してもそれで充実するかといえば違うと思う。

特別支援の障害をもったお子さんを早い段階でどのように支援するかが充実しなければいけない。

保護者が、子どもに障がいがあると認識するのも小学校3、4年生であるため、早く障がいを見つけるような充実などが必要だと思う。

事務局： 現在、制度として教育委員会が中心となって子育てリンクファイルを進めている。

(委員)： これが充実してきたら、早い段階で支援を進めることができるため、配置が進めることができるようになると思う。

事務局： 障がい者については様々な状況があり、保護者が障がいを認めない場合もあり、保育士と保護者の話の中で進めていくこともある。

障がいに対する考え方を保護者や地域全体で理解してもらうのが大事だと思う。その後に、施設の整備や各専門職の配置などに続いていくと考える。

(委員)： 延長保育について、幼稚園としらかば保育園で実施しているということですが、公立保育所については難しいのでしょうか。

事務局： 公立保育所については、受入体制等も含め今の体制では難しい状況ではあるが、しらかば保育園での利用状況と保護者のニーズの動向もとらえながら見極めていきたい。

出来ないという事ではなくそれに対して条件整備が必要である。

根室市の就労状況の実態等を調査しながら、子育て支援という視点で公立保育所での実施について今後の課題となると思う。

- (委員)： 放課後教室について、今後高学年の拡充を検討していただきたい。
- 事務局： 高学年については、部活等により非常に少ないのではと考えていたが、高学年の保護者より要望があるため、定員もありますが、学校の余裕教室もあるので、ニーズに併せて検討していきたい。
- (委員)： 留守家庭児童会の時間の延長等は考えているか。
- 事務局： 以前から連絡をいただければ保護者がお迎えに来るまでお子さんを預かっていた。次年度からは、全面的にPRを行ってきたい。
- 新規の入会の方については申込みの際にお迎えが遅くなる場合は預かる旨説明をしている。閉館は5時20分ですが、お迎えにくるまで預かっている。
- (委員)： 色々な策が講じられているが、一番大事なものは第7章の関係機関との連携だと思う。
- (委員)： 小学校の給食の時間が短い。
- 食育についてはもっと考える必要があると思う。
- (委員)： 高学年と同じ時間帯で生活しており、決められた時間内でやりくりしているため、現状では難しいと思う。
- ゆっくり食べさせてあげたいのもあるし、集団生活の中で早く食べるようにするのも大事だと思う。そこの調整が非常に難しい。
- 事務局： 委員からそのような意見があったことについて、担当部署へ伝えたいと思います。

## (5) 閉会

以 上